

---

## 論説

---

# 日本語との対照におけるサオ語の授受表現

新居田純野

### 1. はじめに

台湾中部の日月潭周辺に住むサオ族<sup>(1)</sup>の言語サオ語<sup>(2)</sup>はオーストロネシア語族に属する。

日本語のやりもらい動詞「あげる、もらう、くれる」は、ものの移動を与え手側と受け手側の視点で表現するものであるが、「あげる」と「くれる」を区別するのは、日本語の授受表現の特徴だといえることができる。そして、この表現はものの方向性において、人称制限が関与してくる。つまり「あげる」は一人称から二人称、三人称へ、または、二人称、三人称から三人称への移動の場合に使われ、「くれる」はものの移動が、より親しいものへの移動でなければならないという制限が出てくる。そこで、一人称から二人称・三人称へ、二人称から三人称へ、というものの移動には使えない。このような人称制限をもつ授受表現がサオ語ではどのように表わされるのかは興味深いことである。また、「売る・買う」「貸す・借りる」などの授受表現も同じことがらを違った視点で表現するもので、これらも授受動詞といえることができる。サオ語では、このような同じことがらを違った視点で表す場合、いわゆる焦点形式で表現される。そして、日本語のやりもらい動詞の「あげる、もらう、くれる」のような恩恵的行為が、サオ語で表現される場合、ものの移動を含む恩恵的行為であれば、日本語

(2)

の「あげる」に相当する lhay (1) (2), または、「手伝う」に相当する dahip (3) などが使われる。

(1) Ali lhay yamin sa fizfiz  
アリ あげる-AF<sup>(3)</sup> 2 複対 助 バナナ  
アリが私たちにバナナをくれる。

(2) ina a fariw hulus a lhay ama  
母 非 買う- AF 非 あげる 父  
母が父に服を買ってあげる。

(3) yaku m-in-dahip ina m-in-apa sa  
1 単主 手伝う-AF・PST 母 背負う-AF・PST 助  
azazak (黄2000:124)

子ども

私は手伝って、母が子どもを背負った。(私は母が子どもを背負うのを手伝ってあげた。)<sup>(4)</sup>

本稿では日本語における授受表現が、サオ語ではどのような表現形式をとるのかについて、サオ語話者より採集した用例を中心にみていくことにする。

## 2. 日本語における授受表現

高橋、他(2005:110)では、やりもらい動詞には、サービスをめぐっての主体-客体関係の表し方の違いがあり、ヴォイスとの類似が認められるとしている。

サオ語では、ものや行為の移動をシテとウケテのそれぞれに焦点をおく焦点形式、あるいは、使役形で表現するという点で、高橋の下記の表(表1)に通じるものがあり、ヴォイスに類似しているともいえるだろう。

また、寺村(1982:127-133)は、授受表現を①ものやことがXからY

表1 日本語のやりもらい動詞とヴォイス

ヴ ォ イ ス	能 動	する	してやる	やり もら い
			してくれる	
	受 動	される	してもら う	
	使 役	させる		

に移動する「与エル」類（与える，教える，売る，貸すなど），②ものやことがYからXに移動する「受ケル」類（教わる，習う，学ぶ，買う，借りるなど），③与え手と受け手に特殊な関係の制限がある，いわゆるやりもらい動詞の「ヤル，モラウ，クレル」類，④XがYに対して，「こと」を介して関係することを表す「命ヅル」類（命令する，要求する，要請する，頼む，強いる，など）の四つに分類している。①類では，シテとものやことの出どころである与え手が一致し，②類では，シテとものやことの到達点である受け手が一致している。また，③類の与え手と受け手の特殊な関係の制限とは，「与え手，貰い手についてのいわゆる人称制限」つまり，「誰が誰に対して（誰から誰へ）」ものや行為の効果が移動するのか，という式の制約である，としている。

サオ語では，寺村の授受表現の③類の人称制限はみられないが，①類②類③類とも，焦点接辞，使役接辞によって表される。

### 3. サオ語の授受表現と焦点

日本語でものやことの移動を表す授受表現は，オーストロネシア語族であるサオ語では，主にいわゆる焦点とよばれる文法形式によって表される。黄（2000:92-105）ではシテ焦点形の接辞は m-, ma-, -m-, -um-, -un-, φで，ウケテ焦点形は-in, -in-, -an で表され，シテ焦点形は，習慣的なできごと，進行中のできごと，すでに発生したできごとの三つの

(4)

表2 先行研究におけるサオ語の焦点形式

新居田 (2007b)	シテ焦点形 m- (さまざまな異形態 がある), $\phi$	ウケテ焦点形 -in	バシヨ焦点形 -an
黄 (2000)	主事焦点 m-, ma-, -m-, -um-, -un-, $\phi$	受事焦点 -in, -in-, -an	
翁	主事語態 m-, ma-, -um- (/un-), $\phi$	受事語態 -in, -an, -n 工具, 交 易動詞 (ものの受け手)	処所語態 -an 場所
Chen	Actor Voice m-, ma-, -um-, <m>, $\phi$	Patient Voice -in, -in-, -an, -n	Beneficiary -an
Blust (1998) (2003)	Actor Focus -/um/- (with rich allomorphy) ma-(future)	Patient Focus -/in/ (co-occur with the perfective infix -/in/-)	Locative Focus -/an/

実現を表すとしている。

また, Blust (2003: 238-240) では, シテ焦点形は, 接辞/um/(<sup>6</sup>)によつて (例: riqaz「見る」は m-riqaz), ウケテ焦点形は接尾辞-inによつて (riqaz-in), バシヨ焦点形は接尾辞-anによつて (riqaz-an) 表されるところとしている。

サオ語の接辞に関する先行研究では, それぞれの接辞について表2のように言及がなされている。

サオ語の焦点について, 新居田 (2007b: 68-72) でとりあげたがここではその概略を紹介しておく。

サオ語の焦点形には, シテ焦点形, ウケテ焦点形, バシヨ焦点形がある。シテ焦点形はその動詞の表す動作の行為者に, ウケテ焦点形はその動詞の表す動作をうける対象, または, 受け手に焦点がおかれる表現で, 動詞に

接辞がつくことで表される。バシヨ焦点形は LF (locative focus) の名を与えられているが、実際には行為の受け手や行為の行われる場所やその行為の目的などに焦点があり、ウケテ焦点形との区別があいまいである。

【シテ焦点形 (AF 形 : Actor Focus)】

シテに焦点がある場合、多くの動詞は接辞 m-によってシテ焦点形となる。

(4) yaku                      k-m-upit              apuy  
 1 単主 (シテ)              消す-AF              火 (ウケテ)  
 私は火を消す。

(5) yaku                      m-riqaz              ihu (ihu-n)  
 1 単主 (シテ)              見る-AF              2 単主 (対) (ウケテ)  
 私はあなたを見る。

(6) yaku                      fariw              qnuan (Blust 1998 b : 351)  
 1 単主 (シテ)              買う-AF              牛 (ウケテ)  
 I am / was buying a cow. (私は牛を買っている/いた。)

(7) yaku                      f-in-ariw              qnuan (Blust 1998 b : 351)  
 1 単主 (シテ)              買う-AF・PST              牛 (ウケテ)  
 I bought a cow (action completed). (私は牛を買った。)

【ウケテ焦点形 (PF 形 : Patient Focus)】

接尾辞-inによって、ウケテ焦点形が作られる。語尾が-i, -aで終わる場合は-nのみがつく。ウケテ焦点形は受け手に焦点がおかれる表現形式で、日本語の受身とは同じではないが、調査で日本語の受身文をサオ語にしてもらくと、ウケテ焦点形で発話がなされる。

(8) apuy                      kupit-in              suma (Blust 2003 : 497)  
 火 (ウケテ)              消す-PF              誰か (シテ)  
 Someone extinguished the fire. (火は誰かに消された。)

(6)

- (9) yaku                      riqaz-in              ihu  
1 単主 (ウケテ)              見る-PF              2 単主 (シテ)

私をあなたが見る。(私はあなたにみられる。)

- (10) qnuan                      fariw-in              yaku (Blust 1998 b: 351)  
牛 (ウケテ)              買う-PF              1 単主 (シテ)

I am buying a cow. (牛を私は買っている。/牛は私に買われる。)

- (11) qnuan                      f-in-ariw-in              yaku (Blust 1998 b: 351)  
牛 (ウケテ)              買う-PF・PST              1 単主 (シテ)

I bought a cow. (牛を私は買った。/牛は私に買われた。)

【バシヨ焦点形 (LF形: Locative Focus)】

バシヨ焦点形は接尾辞-an によって作られるが、語尾が-a で終わる場合は、ウケテ焦点形と同様-n のみがつく。しかしウケテ焦点形と区別するために、アクセントが一番後ろの音節に移動する。

Kalawa (作る) ウケテ焦点形 kaláwa-n    バシヨ焦点形 kalawá-n

ウケテ焦点形が必ず動作のウケテに焦点がおかれるのに対して、動詞のバシヨ焦点形によって焦点がおかれるのは、動作のウケテ (12) や行為の対象 (13)、あるいはその動作が行われる場所 (14) に焦点がおかれる場合があり、ウケテや対象に焦点がおかれた場合は、ウケテ焦点形との差がはっきりしない。例文 (12) (13) (14) の下線で示した名詞句に焦点がある。

- (12) thithu                      kutafalh-an              suma (Blust 2003: 502)  
3 単主-ウケテ              さす-LF              誰か (シテ)

He was stabbed by someone. (彼は誰かにさされた。)<sup>(6)</sup>

- (13) nak      a      rikus              flhuq-an              ihu (Blust 2003: 386)  
1 単属    連      背中              洗う-LF              2 単主格 (シテ)

You washed my back. (私の背中をあなたが洗った。)

- (14) nak a pruq kalawa-n suma sa  
 1 単属 連 土地 作る-LF 誰か 助  
 taun(Blust 2003: 438)

家

Someone used my land to build a house. (私の土地に誰かが家を作った。)

Blust (1998 b) では、オーストロネシア語族の focus には 4 つのマーカ― (IF: Instrument focus), (AF: Actor focus), (LF: Locative focus), (PF: Patient focus) があるが、サオ語では道具焦点形がない、と述べている。そして、サオ語では異形態の発達が豊富で、シテ焦点マーカ―の um- の異形態について、語幹―語頭分節の相関語基の最初の母音や、子音によって接辞が異なることを指摘している。

また、現在では、サオ語のシテ焦点接辞における語順には SVO がよくみられるが、これは台湾語の影響を受けているからのようである。VSO の語順もよくみられる。

- (15) yaku k-m-ay-tunu ihu-n  
 1 単主 たたく-AF 2 単対  
 私はあなたをたたく。 (SVO)
- (16) a mu-tusi yaku Qariwan  
 非 移 あそこ 1 単主 埔里  
 私は埔里に行く。 (VS)
- (17) miku-kan yaku fizfiz  
 好き-食べる 1 単主 バナナ  
 私はバナナが好きだ。 (VSO)

つまり、語順は相当に流動的であると言えるだろう。

次にシテ焦点形やウケテ焦点形における、シテ、ウケテのとり格形式についてであるが、詳しく考察を行っている先行研究がないため、ここでは、

(8)

焦点形式における格形式についてふれておくことにする。

次の表は、サオ語における人称代名詞のとる基本的な格形式である。

表3 サオ語の人称代名詞と格形式 (Blust 2000: 207-日本語訳は筆者)

	主 格	対 格	属 格
一人称単数	yaku	yakin	nak
二人称単数	ihu	ihu-n	m-ihu
三人称単数	thithu	thithu-n	thithu
包括的一人称複数	ita	ita-n	m-ita
除外的一人称複数	yamin	yamin	yamin
二人称複数	maniu	maniu	maniu
三人称複数	thaythuy	thaythuy	thaythuy

サオ語では人称代名詞において、表3のような格形式をもつのであるが、(5)のように、シテ焦点形ではシテは主格、行為のウケテは主格、対格の両形式がみられる。これは、本来はウケテは対格であったものが次第にその厳密性を欠くようになって主格、対格のどちらも使用されるようになったからのである。このことはサオ語話者に確認するとほぼ全員がどちらでもいいという返事であった。(9)のように、ウケテ焦点形では焦点のおかれるウケテも焦点のおかれない動作の行為者であるシテも主格となる。(13)のように、バシヨ焦点形で焦点がおかれていなくても、シテは主格となる。

#### 4. サオ語の授受表現

庵 (2001: 116) では、「勝つ、負ける」のように、形態的には関係を持たないボイスを語彙的ボイス、「抑える、抑えられる」のように、一方が形態的に有標であるボイスを統語的ボイスとしている。このように考える



ならば、サオ語における授受動詞はすべて一方が形態的に有標であるので、統語的ボイスといえるだろう。日本語には以下のような授受動詞があるが、本稿では、サオ語を対象に、これらの授受動詞のうち③の命じる類を除き、①と②で授受の対応関係にある「買う、売る」、「借りる、貸す」、「教える、習う(教わる)」について、考察をおこなった。また、やりもらい動詞として「あげる、もらう、くれる」を扱い、サオ語ではこれらと同じ動詞になる「与える、受ける」は扱わなかった。

#### 授受動詞

- ① 与える類 与える、教える、見せる、示す、売る、貸す、預ける、  
あげる、送る
- ② 受ける類 受ける、教わる、習う、学ぶ、買う、借りる、もらう
- ③ 命じる類 命じる、説明する、感謝する

### 4.1 「あげる、もらう、くれる」

「あげる」「もらう」「くれる」にはものの受け渡しと、行為の受け渡しがある。日本語では恩恵の授受ということになるのだが、サオ語では特に恩恵の授受という意味合いを添える表現形式はなく、ただ単にものや行為の移動を表す。

#### 4.1.1 ものの受け渡し

サオ語では、「(ものを)あげる」は lhay, 「もらう」はバショ焦点接辞の-an をつけた lhay-an, その過去は in-lhay-an 「もらった」となる。ウケテ焦点の過去 in-lhay<sup>(7)</sup> も「もらった」を表す。

- (18) yaku      a      lhay              ihu-n<sup>(8)</sup>      bukay  
          1 単主      非      あげる-AF      2 単対      花  
          私 は あなた に 花 を あげる。

(10)

- (19) ti Kilash ya in-lhay a  
 敬 キラシ あげる-PF-PST 連  
 ma-dimrath (Blust 2003, 528)

金

Kilash was given a gold ring. (キラシさんは金 (の指輪) をもらった。)

- (20) yaku lhay-an ihu sa tuali  
 1 単主 あげる-LF 2 単主 助 お金  
 私はあなたにお金をもらった。

また、「もらう、得る」の m-ara (21) も lhay-an と同様に使用される。

- (21) yaku a m-ara Ali a bukay  
 1 単主 非 もらう-AF アリ 連 花  
 私はアリに花をもらう。

ところで、lhay はものの移動を表すので、場所接辞が使われると解釈できれば簡単であるが、ものの移動には関係のない、たとえば、thanit (泣く) という動詞でも、次の用例のように場所接辞-an が用いられることもあって、バシヨ焦点接辞の-an とウケテ焦点接辞の-in の違いが、現段階でははっきりしない。

- (22) thithu thanit-an thithu a azazak (B 2003 : 339)  
 3 単主 泣く-LF 3 単属 連 子ども

He was mourned by his child. (彼は子どもに嘆かれた。)

このほかに、プレゼントなどとして、その返還を求めない「あげる、送る」を表す panaka<sup>(9)</sup> もあり、過去にもものを受け取ったのであれば p-in-anaka になる。

- (23) yaku thuiny ma-shimzaw, panaka yaku  
 1 単主 今日 寒い-状 あげる-AF 1 単主

hulus a ifaz-in ihu  
服 非 着る-PF 2単主

今日は寒いので、私はあなたが着る服をあげる。

- (24) ihu p-in-anaka yaku aniamin  
2単主 あげる-PF.PST 1単主 もの  
あなたは私にものをもらった。

ただし、panaka は家族には使えないということであった。lhay と panaka が共起する場合もある。

- (25) yaku lhay ihu-n tuza panaka  
1単主 あげる-AF 2単対 うなぎ あげる-AF  
ihu-n a kan-in ihu. (B 2003: 528)  
2単対 非 食べる-PF 2単主

I'm giving you an eel to eat. (私はあなたに (あなたが食べる) うなぎをあげる。)

次に、ものの移動を表現する場合、ものの出どころとなる人とももの到達点となる人が人称代名詞であれば、その格形式が動詞によって違いがみられるので、ここでは格形式をみていくことにする。

シテ焦点形では焦点がおかれるシテは主格に、ウケテは対格に、ウケテ焦点形では焦点のおかれるウケテは主格に、また、シテも多くの場合主格になる。しかし、やりもらい動詞の場合、シテ焦点形ではものの与え手、ウケテ焦点形ではものの受け手が常に主格をとるが、焦点のおかれないシテ焦点形でのものの受け手、ウケテ焦点形でのものの与え手は、それぞれがとる格形式にゆれがみられ、主格、対格の両形式が現れる場合があった。

①【あげる：一人称→二人称：lhay (AF)】(矢印はものの移動する方向を表す)

- (26) yaku a lhay ihu-n/ihu bukay  
1単主 非 あげる-AF 2単対/主 花

(12)

私はあなたに花をあげる。

②【あげる：一人称→三人称：lhay (AF)】

(27) a        lhay                yaku        Ali        bukay  
 非        あげる-AF        1 単主        アリ        花  
 私はアリに花をあげる。

(28) lhay                yaku        thithu        sa        tuali  
 あげる-AF        1 単主        3 単主        助        お金  
 私は彼にお金をあげる。

③【あげる：二人称→三人称：lhay (AF)】

(29) ihu        lhay                thithu        sa        tuali  
 2 単主        あげる-AF        3 単主        助        お金  
 あなたは彼にお金をあげる。

④【あげる：三人称→二人称：lhay (AF)】

(30) ina    a        fariw                hulus        a        lhay  
 母    非    買う-AF        服                非        あげる-AF  
 m-ihu-n (B 2003 : 528)  
 2 単対

Mother will buy clothes for you. (母はあなたに服を買ってあげる。)

⑤【あげる：三人称→三人称：lhay (AF)】

(31) Abish        (a) lhay                (ti)    Ali    (sa)    bukay  
 アビッシュ (非) あげる-AF    (敬)    アリ    (助)    花  
 アビッシュはアリに花をあげる

(32) ina        a        fariw                hulus        a        lhay  
 母        非        買う-AF        服                非        あげる-AF  
 thithu-n (Blust 2003 : 528)  
 3 単対

Mother will buy clothes for him. (母は彼に服を買ってあげる。)

⑥【もらう：一人称→二人称：in-lhay (PF)】

- (33) ihu in-lhay yakin bukay  
 2 単主 あげる-PF-PST 1 単対 花  
 あなたは私に花をもらった。

⑦【もらう：二人称→一人称：lahy-an (LF), m-ara<sup>(10)</sup>(AF)】

- (34) yaku lhay-an ihu sa tuali (Blust 2003: 529)  
 1 単主 あげる-LF 2 単主 助 お金  
 You are giving me the money. (私はあなたにお金をもらう。)

- (35) yaku a m-ara mihu a bukay  
 1 単主 非 もらう-AF 2 単属 連 花  
 私はあなたに花をもらう

⑧【もらう：一人称→三人称：in-lhay (PF), lhay-an (LF), m-ara (AF)】

- (36) Ali in-lhay yakin bukay  
 アリ あげる-PF 1 単対 花  
 アリは私に花をもらう。

- (37) yaku m-riqaz Ali, lhay-ak<sup>(11)</sup> sa tuali  
 1 単主 見る-AF アリ あげる-LF-1 単附 助 お金  
 私はアリを会って、アリは私にお金をもらう。

- (38) Ali a m-ara nak a bukay  
 アリ 非 もらう-AF 1 単属 連 花  
 アリは私から花をもらう。

⑨【もらう：三人称→一人称：lhay-an (LF), m-ara (AF)】

- (39) yaku lhay-an Ali bukay  
 1 単主 あげる-LF アリ 花

(14)

(40) yaku m-ara Ali bukay  
1 単主 もらう-AF アリ 花

(39) (40) とも「私はアリに花をもらう。」

(41) yaku in-lhay-an binanau'az tuali  
1 単主 あげる-LF-PST 女 お金  
私はその女の人にお金をもらった。

⑩【もらう：二人称→三人称：in-lhay (PF)】

(42) manu in-lhay ma-dimrath?  
誰 あげる-PF-PST 金  
誰があなたに金（の指輪）をもらったか。

⑪【もらう：三人称→二人称：lhay-an (LF)】

(43) ihu lhay-an Ali bukay  
2 単主 あげる-LF アリ 花  
あなたはアリに花をもらう。

⑫【もらう：三人称→三人称：in-lhay (PF), lhay-an(LF), m-ara (AF)】

(44) tima sa in-lhay ti Kilash ma-dimrath?  
誰 あげる-PF-PST 敬 キラシ 金  
誰にキラシは金（の指輪）をもらったか。

(45) ti Kilash lhay-an ti Ali sa fafuy  
敬 キラシ あげる-LF 敬 アリ 助 豚  
キラシさんはアリさんに豚をもらう。

(46) Ali m-ara Abish a bukay  
アリ もらう-AF アビッシュ 連 花  
アリはアビッシュに花をもらう。

⑬【くれる：二人称→一人称：lhay (AF)】

(47) ihu lhay yakin bukay  
2 単主 あげる-AF 1 単対 花

(48) mihu a bukay lhay yakin  
 2 単属 連 花 あげる-AF 1 単対

(47) (48) とも「あなたは私に花をくれる。」

⑩【くれる：三人称→一人称：lhay (AF)】

(49) Ali a lhay yakin bukay  
 アリ 非 あげる-AF 1 単対 花  
 アリは私に花をくれる

(50) thithu lhay yakin tuali a fariw  
 3 単主 あげる-AF 2 単対 お金 非 買う-AF  
 hulus (Blust 2003 : 528)

服

He gave me money to buy clothes. (彼は私に服を買うお金をくれた。)

表4は、日本語における「あげる、もらう、くれる」をもとに、サオ語の授受動詞の焦点形、および、与え手、受け手の格表示を用例よりまとめたものである。サオ語では、「あげる、くれる」はすべてlhayのシテ焦点形になり、「もらう」はものの移動が「あげる、くれる」と逆になるため、バシヨ焦点形か、ウケテ焦点形になることがわかる。また、基本的にはシテ焦点では「主格→対格」へものの移動が行われ、ウケテ焦点、バシヨ焦点では「対格→主格」へものの移動が行われる。しかし、シテ焦点でも、ものの受け手が一人称の場合は対格がかなり義務的に使われているが、二人称、三人称がものの受け手となる場合は、その格形式に対格、主格の両方が使用され、「ゆれ」がみられた。特に、ものの受け手が三人称になると、対格よりも主格のほうが用いられやすい傾向がみられた。また、バシヨ焦点形における、三人称から三人称へのものの移動は、筆者の調査では、代名詞ではなく固有名詞が使われる傾向がみられた。

表4 やりもらいを表す場合の格形式と焦点形

	ものの移動方向 ( ): 焦点のある 人称	格形式			焦点形
		主格→対格	主格→主格 <sup>(12)</sup>	対格→主格	lhay あげる
あ げ る	① (1)人称→2人称	*	*		AF
	② (1)→3	*	*		AF
	③ (2)→3	*	*		AF
	④ (3)→2	*	*		AF
	⑤ (3)→3	*	*		AF
も ら う	⑥ 1→(2) (注1)			*	PF
	⑦ 2→(1)		*	*	LF
	⑧ 1→(3) (注1, 2)			*	PF/LF
	⑨ 3→(3)		*	*	LF
	⑩ 2→(3)		*	*	PF
	⑪ 3→(2)		*	*	LF
	⑫ 3→(3)		*	*	PF/LF
く れ る	⑬ 2→(1) (注2)	*			AF
	⑭ 3→(1)	*			AF

(注1) 日本語では使いにくいもらう系の1人称→2人称, 1人称→3人称は, サオ語では, ものの与え手が対格となり, 受け手が主格になっている。

(注2) もらう系の1人称→3人称, くれる系の2人称→1人称では, 移動するものは与え手の所有物の形で使用される例が多くみられた。例: nak a+bukay (私の花-移動するもの), mihu a+bukay (あなたの花-移動するもの)

AF: シテ焦点形, PF: ウケテ焦点形, LF: パシヨ焦点形

#### 4.1.2 恩恵的行為の授受

恩恵的行為の授受は, 日本語ではやりもらい動詞がテ形動詞に後接することによって表されるが, サオ語では, 日本語のテ形動詞の動作に相当する動詞がシテ焦点形になって, 「あげる」にあたる lhay と組み合わせさって行為のやりもらいが表現される。



(51) ina a fariw hulus a lhay ama  
 母 非 買う-AF 服 非 あげる-AF 父  
 母は服を買って、そして父にあげる。(母は父に服を買ってあげる。)

(52) ina f-in-ariw patashan lhay yakin  
 母 買う-PST 本 あげる-AF 1 単対  
 母が私に本を買ってくれた。

次の *nakin*<sup>(13)</sup> は恩恵を受ける一人称のウケテに使われる、1 人称単数対格である。

(53) ina a fariw hulus a lhay nakin  
 母 非 買う-AF 服 非 あげる-AF 1 単対  
 母は私に本を買ってくれた。

また、次の用例のように、買ったのは「私」ではないが、買った家が「私」の所有物であるという「*nak a taun*」という表現にすると、恩恵的授受を表すことができる。

(54) nak a taun fariw-in ti Kilash suma  
 1 単属 連 家 買う-PF 敬 キラシ 誰か  
 私の家は誰かからキラシさんが買う。(キラシさんが誰かから私に家を買ってくれる。)

## 4.2 「買う、売る」

ものの売買を表す場合は、売り手から見れば「売る」であり、買い手から見れば「買う」ということになる。このように品物は売り手から買い手へ、お金は買い手から売り手へ移動する行為はひとつの同じ行為であっても、買い手の視点から表現する場合と売り手の視点から表現する場合には、「買う」「売る」のようにまったく違う語彙が使われる。あるいは、「買う」「買われる」、「売る」「売られる」というように受身動詞によっても表現す

(18)

することもできる。サオ語では、この日本語での受身動詞を使うのと同様に似ていて、「買う」を表す動詞 *fariw* は「売る」という行為を表すとき、ウケテ焦点形 *fariw-in* が使われる。

- (55) *yaku a fariw fizfiz*  
1 単主 非 買う-AF バナナ  
私はバナナを買う。
- (56) *yaku f-in-ariw rithkuy*  
1 単主 買う-AF-PST みかん  
私はみかんを買った。
- (57) *f-in-ariw iza yaku fizfiz*  
買う-AF-PST すでに 1 単主 バナナ  
バナナを買ってきてある。
- (58) *fariw-ik<sup>(14)</sup> iza fizfiz*  
買う-AF-1 単主 すでに バナナ  
バナナを買ってきた。

「売る」は、*fariw* 「買う」のウケテ焦点形 *fariw-in* である。

- (59) *alha kaiza sa i-nay m-ita wa aniamin*  
大体 いつ 助 指 2 複属 連 もの  
*ya fariw-in?* (Blust 2003: 375)  
もし 買う-PF

When will these things of ours be sold? (いつ私たちのこれらのものは買われるのか。)

- (60) *haya wa taun fariw-in suma*  
指 連 家 買う-PF 誰か  
この家は誰かに買われる。(誰かに売る。)
- (61) *i-nay a hulus f-in-ariw-in suma*  
指 連 服 買う-PF-PST 誰か

この服は誰かに買われた。(この服を売った。)

使役接辞<sup>(15)</sup>がつくと pa-fariw 「買わせる」, すなわち「売る」ということを表す。

- (62) pa-fariw            thithu  
       買う-CAUS        3 単主  
       彼に買わせる。(彼に売る。)

語幹の繰り返しにバシヨ焦点形-an がつくと, fari-fariw-an になって, いつもものが買われる場所, すなわち「店」のことを意味する。

- (63) nak            a        binanau'az        mu-tusi        fari-fariw-an  
       1 単属        連        女                    移-あそこ        買う-IT-LF  
       fariw            (sa)        rusaw  
       買う-AF        (助)        魚  
       妻が市場に魚を買いに行く。

#### 4.3 「借りる, 貸す」

sh-m-imul 「借りる」は, SVOO の構文形式をとらず, (64) のように, SVO となって, ものの出どころと移動するものは持ち主とその所有物(私の斧)という形で表される。

- (64) ihu            sh-m-imul        nak            a        paqit  
       2 単主        借りる-AF        1 単属        連        斧  
       あなたは私の斧を借りる。(あなたは私に斧を借りる。)

未来を表す場合は, a ma-shimul となる。

- (65) ihu            a ma-shimul        nak            a        patashan  
       2 単主        非 借りる-未        1 単属        連        本  
       あなたは私の本を借りる。(あなたは私に本を借りる。)

- (66) Ali            a        ma-shimul        kilash        a        patashan  
       アリ        非        借りる-未        キラシ        連        本

(20)

アリはキラシの本を借りる。(アリはキラシに本を借りる。)

「借りる」という行為で移動するものに焦点がおかれる場合は、ウケテ焦点形 *shimul-in* になる。

(67) nak a hulus shimul-in thithu (Blust 2003:910)  
1 単属 連 服 借りる-PF 3 単主

He borrowed my clothes. (私の服は彼に借りられた。)

「貸す」は使役接辞によって表される。

(68) nak a paqit pa-shimul ihu  
1 単属 連 斧 借りる-CAUS 2 単主

私の斧はあなたに貸す。(私はあなたに斧を貸す。)

「貸す」の場合も同様に、移動するものは所有者の所有物として表現されるが、次の用例のように、出どころである「私 *yaku*」が共起してもかまわない。また、語順は OVSO, SVOO, VSOO など非常に自由である。

(69) nak a paqit pa-shimul yaku ti Ali (OVSO)  
2 単主 連 斧 借りる-CAUS 1 単主 敬 アリ

私の斧は私がアリに貸す。(私は斧をあなたに貸す。)

(70) yaku pa-shimul kilash nak a paqit (SVOO)  
1 単主 借りる-CAUS キラシ 1 単属 連 斧

私はキラシに私の斧を貸した。

(71) pa-shimul yaku ihu-n tuali (VSOO)  
借りる-CAUS 1 単主 2 単対 お金

私はあなたにお金を貸した。

#### 4.4 「教える、習う (教わる)」

「教える」*fuilh* は、ウケテ焦点形 *fuilh-in*、バシヨ焦点形 *fuilh-an* で「習う (教わる)」となる。

- (72) yaku a fuilh ihu-n quyash  
 1 単主 非 教える-AF 2 単対 歌  
 私はあなたに歌を教える。

- (73) Ali a fuilh yakin quyash  
 アリ 非 教える-AF 1 単対 歌  
 アリは私に歌を教える。

fuilh「教える」のウケテ焦点形 fuilh-in とバシヨ焦点形 fuilh-an はどちらも教わる（習う）になるが、その違いは現時点でははっきりしない。また、一人称が動詞に後接した形 fuilh-ak (76) も、バシヨ焦点形となつて「教わる」となる。これは翁 (2000:32) にあるように、焦点形-an に付着式の一人称単数主格の-k がついたものといえるのかもかもしれない。

- (74) yaku fuilh-in ihu maqa-quyash  
 1 単主 教える-PF 2 単主 歌う  
 私はあなたに歌を教わる（習う）。

- (75) yaku a fuilh-an thithu quyash  
 1 単主 非 教える-LF 3 単主 歌  
 私は彼に歌を教わる（習う）。

- (76) Ali fuilh-ak quyash  
 アリ 教える-LF-1 単付 歌  
 アリは私に歌を教わる（習う）。

また、「知っている」の ma-fazaq も、使役形 pin-fazaq で fuilh「教える」と同じように用いられる。

- (77) yaku a mu-tusi Qariwan pin-fazaq thaw a lalawa  
 1 単主 非 移-あそこ 埔里 学ぶ-CAUS サオ族 連話

- (78) yaku mu-tusi Qariwan a fuilh thaw a lalawa  
 1 単主 移-あそこ 埔里 非 教える-AF サオ族 連話

- (77) (78) とともに、「私は埔里へ邵語を教えに行く。」

## 5. おわりに

日本語での授受動詞「買う」と「売る」, 「借りる」と「貸す」, 「教える」と「習う」は形態的に関係を持たない語彙的ボイスであるが, サオ語では、ほとんどの授受動詞の一方が形態的に有標である統語的ボイスである。そして、動作主の動作が主として考えられ、動作のシテ側から見た場合は、その動作を表す動詞はシテ焦点形によって表される。「lhay あげる/lhay-an (LF) あげられる (もらう)」, 「fariw 買う/fariw-in (PF) 買われる (売る)」, 「sh-m-imul 借りる/pa-shimul] CAUS)・shimul-in (PF)・shimul-an (LF) 借りられる (貸す)」, 「fuilh 教える/fuilh-an (LF) 習う (教えられる/教わる)」というように、ものや行為などの移動をウケテ側から見た場合は、その動作を表す動詞はウケテ焦点形、バシヨ焦点形、あるいは、使役形で表される。

これらのシテ焦点形とウケテ焦点形、バシヨ焦点形は以上考察してきたように、能動受動と対応するものであり、授受動詞の関係を表すのにも使用されるのである。ただ、サオ語の焦点形では、日本語のような恩恵があるかどうかという点には関わりがなく、ただ、ものや行為がどちらからどちらに移動したかという点のみに関わる。

以下、授受を表す動詞は、どんな焦点形をとるかについてまとめておく。

この表より、シテ焦点接辞をとるのは、「あげる」「くれる」「買う」「借りる」「教える」であるが、それぞれの授受を逆の視点から見た行為「もらう」は「あげる」のウケテ焦点形かバシヨ焦点形で、「売る」は「買う」のウケテ焦点形か使役形で、「貸す」は「借りる」のウケテ焦点形か使役形で、「教わる」は「教える」のウケテ焦点形かバシヨ焦点形で表される。ただし、「くれる」に関しては、ものの受け手は「私」であるが、ものの出どころは一人称以外の与え手で、シテ焦点形「あげる」における与え手と一致する。そのため、「あげる」も「くれる」も、与え手であるもの

表5 授受動詞の焦点形式

サオ語	日本語	シテ焦点形	ウケテ焦点形	バシヨ焦点形	使役形
lhay	あげる	○			
lhay	くれる	○			
lhay-in lhay-an	もらう		○	○	
fariw	買う	○			
fariw-in pa-fariw	売る		○		○
sh-m-iul	借りる	○			
shimul-in pa-shimul	貸す		○		○
fuilh	教える	○			
fuilh-in fuilh-an	学ぶ (教わる)		○	○	

出どころがシテとなり、受け手が一人称か一人称以外かという違いがあるだけで、文構造はまったく同じになるのである。

以上、本稿ではサオ語における授受表現が焦点形式を用いて表現されるということを示した。またそのことと連動して、これまでにほとんど論じられてきていない焦点形における格形式についても考察を行った。

サオ語では、シテ焦点形ではシテは主格、行為のウケテは対格となり、ウケテ焦点形では焦点のおかれるウケテも、動作行為者であるシテも主格となる。また、やりもらい動詞においては、基本的には、シテ焦点では「主格→対格」へものの移動が行われ、ウケテ焦点、バシヨ焦点では「対格→主格」へものの移動が行われる。しかし、筆者の調査から、やりもらい動詞のシテ焦点では一人称においては対格がかなり義務的に使われているが、二人称、三人称では受け手の格形式に主格、対格の両方がみられるように「ゆれ」がみられ、特に、三人称になると、対格よりも主格のほう

が用いられやすい傾向があることがわかった。

本稿では、日本語特有の文法表現形式である授受表現における「やりもらい」が、サオ語でどのような表現形式で表され、その格形式はどのようなになっているかを明らかにした。また、その他の授受表現についても、焦点形によって表し分けられ、一方が形態的に有標であることを示した。つまり、サオ語における焦点形式は何に焦点がおかれるかということで使用される文法形式であるが、同じコトガラを違った視点で表すという授受表現においても焦点形式が使用されているということをこれまでに述べた先行研究はなく、この点も本稿で明らかにした点である。

また、サオ語における先行研究は少なく、焦点形式についても、バショ焦点形とウケテ焦点形の違いなどがまだ明らかにされていない。そこで、あらゆる方向から焦点形式について考察をしていくことで、今後の課題として、サオ語における焦点形式を明らかにしていきたいと思う。

## 注

- (1) サオ族は南島の一族と分類されている台湾原住民であり、2001年に、台湾政府（行政院）は、サオ族を台湾における「第十番目の原住民」として公式に認定した。現在の人口は600人余りである。また、サオ語を自由に話す人の年齢も高齢層が多く、サオ語は消滅の危機に瀕しているとも言われている。現在では、日常生活に使用する言語は、主に台湾語と中国語である。そして、サオ語はサオ族同士の会話の中に時々使用される程度である。本発表で用いる資料は、筆者が60代以上の話者から得たものと、Blust (2003) における用例である。
- (2) ここで用いるサオ語の表記は、子音は/p/,/b/,/m/,/f/,/t/,/d/,/n/,/th/[θ] (Blust (2003) の表記は/c/)、/s/,/z/[ð],/lh/[t],/l/,/r/,/sh/[ç],/k/,/ng/[ŋ] (Blust (2003) の表記は/g/)、/q/,/'/[glottal stop], /h/,/y/,/w/である。母音は/a,u,i/の三つだが、/i/は/q,r/と連続するとき[e][a][e]などに、/u/は/q,r,ng/と連続するとき[o]となる。/b,d



/の前と、語頭・語尾の母音は glottal stop が現れるが、本稿では表記を省略した。Blust (2003) からの引用用例に関しては、本稿ではすべて筆者の採用している表記に統一してある。アクセントは、基本的には後ろから二番目の音節にくる。

- (3) 本稿で使用する略記号は以下の通りである。AF actor focus (シテ焦点); PF patient focus (ウケテ焦点); LF locative focus (バシヨ焦点); PST past (過去); CAUS causative (使役); 主 主格; 対 対格; 属 属格; 単 単数; 複 複数; 1 1人称; 2 2人称; 3 3人称; 連 連結辞; 非 非実現; 助 助辞; 状 状態接辞; 未 未来接辞; 指 指示詞; 移 移動接辞; 敬 敬称。
- (4) 先行研究からの引用用例の訳は筆者による。また、筆者が集めた用例の日本語訳は、サオ語を直訳してあるため、その日本語訳の後ろの括弧内に解説、被調査者に質問した日本語文、あるいは、サオ語の直訳を自然な日本語に直したものなどを補ってある。
- (5) シテ焦点形を表わす接辞は m-, -m- などいくつかの異形態があるため、Blust はそれらを音素 /um/ で代表させて提示している。
- (6) Blust (2003) から引用した用例には、英文の後に日本語訳が括弧の中につけてあるが、訳は筆者による。
- (7) in-lhay は Blust (2003; 528) によれば、ウケテ焦点形の完了ということになる。
- (8) ihu-n (二人称対格) は ihu (二人称主格) で発話される場合も多く、どちらも使われる。
- (9) Blust (2003; 666) には、panaka は、"give a gift with on strings attached, give a gift which is not expected by custom, and for which no return in anticipated (as in giving clothing)" とある。
- (10) もらう系は、ara 「もらう」の AF 焦点形 m-ara もよく使われるようである。
- (11) lhay-ak の -ak は一人称の主格 yaku が動詞に附随した形で、Blust (2003: 92) には、'suffix marking the first person singular actor, the pronominal counterpart of -/an/.' とあり、-ak が附随した動詞は LF 形 (バシヨ焦点形) とされている。したがって、本稿でも、'動詞-ak' のグロスは「LF-1 単附」とする。黄 (2000) でも主格として扱われている。また、翁 (2000: 32) では、-ak は -an+-k, -ik は -in+-k であるとしており、バシヨ焦点形、ウケテ焦点形のシテ (行為者) を示すとしている。
- (12) Blust (2003; 207) に 'Despite the clear contrast between the nominative and accusative pronouns there is tendency in casual speech to

substitute nominative pronouns in accusative contexts,' とあるように、会話では、対格が主格で代用されることが多い。ただし、筆者の調査では、一人称だけは、主格、対格がかなり守られているようであった。

- (13) Blust (2003; 1057) には、'nakin : 1 s benefactive, for me' とある。  
 (14) Blust (2003; 375) には、fariw-ak のように、1 人称単数の-ak がつくるとパシヨ焦点形になるが、fariw-ik のように、1 人称単数の-ik がつくるとシテ焦点形になる、とある。  
 (15) 使役接辞については、新居田 (2007 b) から引用して、簡単にまとめておく。

サオ語の動作動詞の使役形 (CAUS; Causative) の多くは pa-あるいは pu-で表されるが、その他に pin-, pashi-, pia-などがある。動詞語頭が a-, u-の場合は、p-のみがつく。

- (1) yaku                    a   pa-riqaz       ihu  
 1 単主 (命令者)   非   見る-CAUS   2 単主 (ウケテ・シテ)  
 huya       wa   binanaua'z.  
 それ       連   女  
 私はあなたにその女を見させる。

また、使役接辞が使われない動詞の場合、「A は B に C という動作をするように言う」という形式をとることで、「A は B に C させる」という意味を表すことができる。

- (2) yaku                    ma-lalawa       ihu-n  
 1 単主 (命令者)   話す-AF       2 単対 (ウケテ・シテ)  
 mi-talha       Ali.  
 待つ-AF       アリ  
 私はあなたに言う、あなたはアリを待つ。→私はあなたにアリを待たせる。

## 参考文献

(日本語文献)

- 庵功雄, 他 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク  
 庵功雄 (2001) 『新しい日本語学入門—ことばのしくみを考える—』スリーエーネットワーク  
 高橋太郎, 他 (2005) 『日本語の文法』ひつじ書房  
 角田太作 (1991) 『世界の言語と日本語』くろしお出版  
 寺村秀夫 (1982) 『日本語のシンタクスと意味』第 1 巻くろしお出版  
 新居田純野 (2007 a) 「サオ語の文法研究」『石阿松氏『サオ語語彙4000』—

- 仮名が記録した太平洋“危機言語”一』学習院大学東洋文化研究所調査報告(安部清哉・新居田純野編):304-350
- 新居田純野(2007b)「サオ語(台湾)における焦点接辞と二項述語階層」『他動性の通言語的研究』くろしお出版:67-78
- (中国語文献)
- 翁翠霞(2000) A Contrastive Study of Tense, Mood and Aspect Systems in Tsou and Thao (修士論文) 国立中正大学
- 簡史朗・石阿松 編著(2001)『邵語読本』台湾:行政院文化建設委員会
- 黄美金(2000)『サオ語参考語法』(台湾南島語言4)台湾:遠流出版公司.
- 李方桂・陳奇祿・唐美君(1956)「サオ語記略」『国立台湾大学考古人類学刊』7:137-166.
- (英語文献)
- Blust, Robert (1998 a) Some problems in Thao phonology. In : Shuanfan Huang (ed.) *Selected papers from the Second International Symposium on Language in Taiwan*, 1-20. Taipei : Crane.
- Blust, Robert (1998 b) A note on the Thao patient focus perfective. *Oceanic Linguistics* 37 : 346-53.
- Blust, Robert (2003) *Thao Dictionary*. Taiwan : Institute of Linguistics Academia Sinica.
- Chen, Yomin (2000) Negation in Thao and Tsou. M. A. thesis. National Chung Cheng University, Chiayi, Taiwan.
- Li, Paul Jen-kuei (1976) Thao Phonology. *Bulletin of the Institute of History and Philology, Academia Sinica* 47.2 : 219-244
- Wang, Shan-Shan (2004) An ergative view of Thao syntax. Unpublished doctoral dissertation. University of Hawaii.

【付記】 本稿は、次の研究成果の一部である。

学習院大学人文科学研究所 2007-08 年度共同研究プロジェクト「危機言語・サオ語(台湾中部)の音声記録と記述的研究」(代表者、安部清哉(学習院大学)、研究分担者・長嶋善郎(学習院大学)・新居田純野(台湾・大葉大学))

# Giving and Receiving Expressions in Japanese and the Thao Language of Taiwan

NIIDA Sumino

Key words: Thao language, giving and receiving verbs, focus, causative, case form

This paper aims to clarify the usage of the giving and receiving expressions in the Thao language. Thao is the language of the native Thao people residing in Taiwan's central region; it belongs to the Austronesian family of languages.

The verbs implying giving and receiving are verbs such as 'give & receive', 'sell & buy' and 'lend & borrow'. Each pair of verbs implies the same section or event; however, these verbs are used differently when one views the actions or events from the opposite standpoint. In the Thao language, these giving and receiving expressions are expressed by patient focus affix, locative focus affix and causative affix. Furthermore, I examined the case form of a giver and a recipient in the giving and receiving expressions of the Thao language.